

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年4月3日

NEJM：新型コロナに対するイベルメクチン早期投与の有効性はないようだ
(意訳)

【松崎雑感】

新型コロナ感染者にイベルメクチンとプラセボのどちらが効くか（入院に至る重症化を防止できるか）を調べたところ、有意差がなかったというニューイングランドジャーナルの論文です。2020年頃には、どんな副作用があるかわからないmRNAワクチンを受ける代わりに、イベルメクチンを飲めば大丈夫だという主張が結構ありました。新型コロナと言う未知のイベントに直面して、それぞれの時点での情報に基づいて、何が必要かを決めるという事は、難しいことは言うまでもありませんが、少しずつ明らかにされた知見に学んで、今後の採るべき道を選んでゆくことが大事だと思います。

NEJM :

新型コロナに対するイベルメクチン早期投与の有効性はないようだ（意訳）

Reis G, et; TOGETHER Investigators. [Effect of Early Treatment with Ivermectin among Patients with Covid-19](#). [N Engl J Med](#). 2022 Mar 30. doi: 10.1056/NEJMoa2115869. Epub ahead of print. PMID: 35353979.

背景

新型コロナ感染症患者に対するイベルメクチン投与が、入院リスクを減らすことができるかどうか結論が出ていない。

方法

ブラジルの12か所のパブリックヘルスクリニックで確定診断された有症状新型コロナ感染者を対象とした、二重盲検、ランダムイズ、プラセボコントロールトリアルを実施した。発症から7日以内で、重症化リスクを持つ患者をイベルメクチン400 μ g/kg 3日間投与群とプラセボ投与群に振り分けた。治療開始から28日までの病状悪化による入院（救急治療部門での長期観察も含む）リスクを評価した。

結果

入院に至った者は、イベルメクチン群679名中100名（14.7%）、プラセボ群679名中111名（16.3%）であり、イベルメクチンによる有意な入院リスク低下は見られなかった（相対リスク 0.90; 95%信頼区間, 0.70 ~ 1.16）。

各種のサブグループ解析でもイベルメクチン群の入院リスクの有意な低下は観察されなかった。イベルメクチンの副反応はプラセボと有意差がなかった。

結論

イベルメクチン投与による新型コロナウイルス感染者入院リスクの有意な低下は見られなかった。

【サブグループ解析の結果】

